



新コーナー！
津山の人・物・技術な
ど、明日誰かに自慢し
たくなる津山のいいと
ころを紹介します

ええとこ
いっばい

津山



1
つやまじまん

残していきたい地域の風景 茅葺きのある風景(阿波)

見かけることが少なくなった茅葺き屋
根のある風景を未来につなごうと、昨年
9月、一般社団法人ふらり(阿波)が補
修作業の体験見学会を開催。茅葺きの家
を守る大塚昭典さん(阿波)と、技術をつ
なぐ職人 山本進さん(加茂町公郷)、
それぞれに聞いた思いを紹介します。

ふるさとの風景を残したい

「市外に出た兄弟が帰ってきた
とき、懐かしくてあたたかい気持
ちを思い出せるよう、ふるさとの
風景を残しておきたかった」大塚
さんの言葉です。「体験見学会に
たくさんの人が興味を持ってくれ
て驚きました。茅葺きのある風景
を求めて、写真を撮りに何度も訪
れてくれる人もいます。子どもが
家を継ぐ予定はないので、これか
らどう残していくか」と今後への
迷いを語ってくれました。

地域に育まれてきた茅葺き

岡山県内で数少ない茅葺き職人
として活躍する山本さんは「茅葺
き屋根を作るため、アメリカに行
ったことがあります。雨漏りは心
配ないと説得しましたが分かって
もらえず、雨水対策をした屋根に
茅を葺くことになりました。茅が
持つ油が雨水をはじき、伝って下
に流れるので、よほど傷まない限
り、雨漏りはしません。自然の特
性を生かした昔ながらの知恵で
す」と茅葺きの特徴を説明。屋根
の造りは地域によって違い、津山
は出雲地方の流れを汲んでいるそ
うです。「歴史、地理などのつな
がりて培われてきた風景ともいえ
ます」と教えてくれました。

技術と一緒につないでいきたい

屋根に積もった約20年分のコケ
や土を落とし、新しく差し込む茅
の束を押し切りし、状態を確認し
ながら傷んだ部分を差し替えてい
く。一つひとつを手作業で行う補
修作業に要した時間は約1カ月。

「風を相手にし、雨を相手にし。
自然の条件に合わせて作業するの
で、根気が必要です。茅葺きの建
物も、材料になる茅も減る中で、
自分の技術と一緒に、地域の大切
な風景を残していきたい」と語る
山本さん。衆楽園の余芳閣や沼遺
跡(沼)の復元住居の茅葺きなど
を手掛けるほか、公民館などに茅
葺きの模型を寄贈しています。

「さまざまな機会を通じて茅葺
きの魅力を知ってもらい、これか
らの世代につないでいきたい」と
笑顔で話してくれました。



体験見学会の様子



茅の押し切りを
指導する山本さ
ん(写真右)

屋内のいろりの間
を案内する大塚さ
ん(写真中央)

つやま和牛が当たる11月号の
広報フーズ、たくさんの応募あ
りがとうございました。当たっ
たお肉の食べ方を集計した結果、
一位に輝いたのはすき焼き、次
が焼肉でした。しゃぶしゃぶや
肉巻きおにぎりという声も。わ
たしもいつか我が家で育てた米
や野菜と一緒に、おいしいつや
ま和牛を楽しみたいです。(☆)



表紙を撮影しました。ドロー
ンでの空撮は経験がありますが、
日の出を撮影したのは初めてで
す。写真に写る穏やかな稜線
を見てみると、津山盆地がかつて
海(湖)だったといわれている
ことも納得できました。上空か
ら眺めると、今まで気付かなか
ったのが見えてくるのも、ド
ローンの魅力の一つです。(三)